

広島県

何度も訪れたいくなる観光プロダクト開発についての勉強会を実施

支援概要

■支援の経緯

広島県F市は瀬戸内海に面した自然と、城下町として栄えた歴史を合わせ持つ風情豊かな都市である。近年は国内外から多くの観光客が訪れるようになっているが、課題として観光客の滞在時間が短い点と消費額が少ない点がある。今制度を利用して市内で観光に携わる事業者を集め、上記課題を解決するために専門家による地域の観光プロダクトの開発のための勉強会を開催したいと考えている。講師を要請したT氏は地域住民発案のツアーをディレクションし、販売・催行までを担うなど着地型観光プログラムの開発を得意とする専門家である。今回の支援を契機にF市ならではのプログラムを開発し、最終的には観光客の滞在時間の延伸と消費額の拡大を図っていききたい。

■専門家による具体的な支援内容

「地域を主役とした何度も訪れたいくなる観光プロダクト開発について」というタイトルで約2時間に渡って講義を行った。具体的には売れる観光プロダクト開発についての方法論(仮説→検証→改善→仮説)について解説し、着地型観光を推進し、着実なものにするには「住民が企画者」という当事者意識を持つ点と自分たちが住んでいる町の特性をよく理解する点が重要であることを強調した。最後に観光プロダクトを開発するための観光素材の発掘と磨き上げ方法について具体的な例を複数提示し、参加者が観光プロダクト創出のヒントを得ることができるよう説明を行った。

支援の効果

今回のセミナーには70名の飲食・宿泊業関係者が集まり、関心の高さが伺えた。集客力のある観光プロダクトとはどのようなものかを考える良い機会となった。この支援を契機にご教示頂いた観光プロダクトを生み出す方法論を用いて、地域住民発の観光プロダクトの創出に向けて動き出していききたい。



専門家の声

今回紹介したような観光プロダクトの開発を行うためには何度も仮説検証を繰り返す粘り強さと地域の人々がその地域の風土、素地をよく理解し、磨き上げていくことが重要である。今回の支援を契機に観光プロダクト創出の方法論を駆使して開発、検証、改善を図ってほしい。

団体の声

観光に携わる事業者が多数参加し、勉強会は大盛況だった。プロダクト創出の方法論をご教示いただいたので、今後も地域で勉強会を開催し、観光客の滞在時間の延伸と消費額の拡大を図っていききたいと思います。